

〔14〕 B

次の文章は、『大鏡』「藤原基経」伝の一部である。これを読んで、後の間に答えなさい。

小松の帝の御母、この大臣の御母、はらからにおはします。さて、児(ちご)より小松の帝をば親しく見奉らせ給ひけるに、ことにふれ遅(きやうじゆ)迹におはします。「あはれ君かな」と見奉らせ給ひけるが、良房の大饗にや、昔は親王たち、かならず大饗につかせ給ふことにて、(2)わたらせ給へるに、鶉の足は必ず大饗に盛るものにてはべるを、いかがしけむ、尊者の御前にとり落としてけり。陪膳(はいぜん)の、皇子の御前(みこ)のをとりて、まどひて尊者の御前に⁽³⁾据うるを、いかが思し召しけむ、御前の大殿油を、(4)やをら(5)かい消たせ給ふ。この大臣は、その折は下臈(げらぶ)にて、座の末にて見奉らせ給ふに、「(6)いみじうもせさせ給ふかな」と、いよいよ見めで奉らせ給ひて、陽成院おりさせ給ふべき陣定(ちんのさだめ)にさぶらはせ給ふ。融(とほる)の大臣、左大臣にて⁽⁷⁾やむごとなくて、位につかせ給はむ御心ふかくて、「いかがは。近き皇胤(くわういん)をたづねば、融らもはべるは」と言ひ出で給へるを、この大臣こそ、「皇胤なれど姓給はりて、ただ人にて仕へて、位につきたる例(ためし)やある」と申し出で給へれ。(8)さもあることなれど、この大臣の定めによりて、小松の帝は位につかせ給へるなり。

〔出題校〕
中央大

〔重要語句〕

- はらから
- おはします
- 児
- 奉る
- あはれ
- わたる
- 給ふ
- はべり
- いかが
- まどふ
- 思し召す
- 大殿油
- やをら
- 下臈
- いみじ
- めづ
- おる
- さぶらふ
- やむごとなし
- たづぬ
- 給はる

注

小松の帝……光孝天皇。元慶八年（八八四）～仁和三年（八八七）在位。

この大臣……藤原基経のこと。太政大臣、寛平三年（八九二）没。五六歳。

遷迹……人を驚かせるほど立派なこと。

良房の大臣……藤原良房、太政大臣。貞觀一四年（八七二）没。六九歳。

大饗……大臣が、任官したときおよび、正月に恒例の行事として行う宴会。

尊者……大饗の客の内、筆頭の身分の者。

陣定……公卿が列席して行う会議。

融の大臣……源融。嵯峨天皇第十二皇子。臣籍に下り、源姓を賜った。

問一 傍線(1)「見奉らせ給ひける」、傍線(3)「据うる」、傍線(5)「かい消たせ給ふ」とは、それぞれ誰の動作か。もつとも適当と思う語句を本文中から抜きだして答えなさい。

(1)
(3)
(5)

○ただ人
○例
○さもあり

問二 傍線(2)「わたらせ給へる」の敬語表現について、誰の誰に対する敬語か。もつとも適当と思ふものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 小松の帝の陽成院に対する敬語
- B この大臣の陽成院に対する敬語
- C この大臣の小松の帝に対する敬語

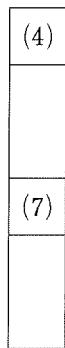
- D 陪膳の小松の帝に対する敬語
 E 語り手の小松の帝に対する敬語



問三 傍線(4)「やをら」、傍線(7)「やむ」となく」の解釈として、もっとも適当と思うものをそ

れぞれ左の中から選び、符号で答えなさい。

- (4) 「やをら」 A 急に
 B 突然
 C そつと
 D わざと
 E ついでに
- (7) 「やむ」となく」 A 裕福である
 B 有名である
 C 人柄がよい
 D 高貴である
 E 権威がある



問四 傍線(6)「いみじうもせさせ給ふかな」とは、誰のどういう行為に対する評価か。その説明

としてもっとも適当と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 親王たちが、良房の大臣の大饗に、そろつて参列したこと

問五

- 傍線(8)「さもあることなれど」の具体的な内容の説明として、もつとも適當と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。
- A 良房の大臣が、皇子の膳の鶏の足さえ、強引に自分の膳に盛り替えさせてしまったこと
 - C 良房の大臣が、親王たちの膳に盛るはずの鶏の足を、わざと盛りつけさせなかつたこと
 - D 自分の膳に鶏の足が盛りつけてないので、小松の帝ががつかりしたこと
 - E 小松の帝が、とつさに自分の前の大殿油を消して、陪膳の落ち度を庇かばつたこと

